

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101048		
法人名	社会福祉法人 熊本厚生事業福祉会		
事業所名	グループホーム第二ほたる家		
所在地	熊本市西区河内町船津946		
自己評価作成日	平成24年10月29日	評価結果市町村受理日	平成25年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成24年12月11日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム第二ほたる家は、目の前に有明海、周りには金峰山やみかん畑など自然に恵まれた環境にあります。ホームの窓からは、みかん畑が近くに見えみかんの色つきと共に季節を感じる事が出来ます。夕方になると有明海に沈む夕日を見ながら、居間で食事を摂ります。この環境を生かして、日々の散歩や外出行事を実施しています。毎日の日課には、ご利用者と一緒に洗濯や掃除、食事やおやつづくり買い物などを実施しています。余暇活動には、機能維持のために体操や歌、レクレーションも充実しています。毎月季節に合った貼り絵を作ったり、習字教室や生花教室、同法人内のグループホームと共同して、農園活動や音楽療法を実施しています。楽しみの一つである食事は管理栄養士の管理により健康に留意し、栄養のバランスや見た目も楽しめる食材の工夫をしています。職員は、法

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・開設後一年を経過したばかりの新しい施設であるが、運営推進会議は、地域の多くの職種の方々や利用者家族の参加を得て、活発な意見交換がなされている。今後、地域や家族の協力を得ながら、地域の重要な一員として発展していくと思われる。・月1回の職員ミーティングに当たっては、事前に職員に話し合うべき議題を募り、充実した会議としている。新しい施設を全員でよりよい施設にしていこうという意欲が感じられた。・利用者本位の意識が高く、入居者それぞれのペースで自由に行動できるようにと、見守り主体のケアが行われている。今後、研修や経験を積み重ねることで、さらに質の高い快適な施設へと発展することが期待される。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の方針を決め、管理者・職員で共有している。開設から半年間は、ご利用者も職員も落ち着けない状況だった。最近では理念に沿って毎日の活動を考えながら実践している。	理念は検討の結果、「利用者も職員も誇れる施設をめざす」という法人の理念を、系列のグループホーム共通の理念とし、毎週月曜日の朝礼で理念を唱和し共有。理念を基に、ホーム独自で具体的な6項目の方針を掲げ、行動の規範としている。問題があったときは理念に立ち返り、誇れる施設として「利用者には喜ばれるためにどうすべきか」を念頭にサービスにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一斉清掃などに参加している。近くにある公民館に出掛けたり、買い物に出掛けたりしている。近くの畑に仕事に来られた方と挨拶や会話をしている。	地域の夏祭りや相撲大会等の行事や小学校の運動会を見に行ったり、踊りのボランティアの訪問等もあるが、まだ開設後一年と期間が短いこともあり、近隣との交流はこれからという状況。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の理解を深めて頂いたり、家族会で認知症の話をしたりしている。近隣からの相談にのっている。今後は、地域の会合等で話せる機会をつくりたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動の報告や意見交換を行っている。ご家族や地域の声を取り入れている。	運営推進会議には自治会長や区長・民生委員・老人会長・駐在所・消防署等、多くの地域の委員の参加を得て、偶数月の第4金曜日に開催。家族委員からの「認知症についての話を聞きたい」という意見で、家族会で認知症の勉強会をしたり、「災害時に地元の消防団との連携を図ると良い」といった助言を得るなど、ホームに対する応援的な存在で、活発な意見交換がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターへは定期的に連絡を取っている。包括支援センターからも認知症家族の会や研修の案内などを頂いている。	包括支援センターが法人の中にあり、包括との連携は良好。開設当初、2回ほど市西区支部に運営推進会議への出席を依頼したものの返事がなく、そのままになっており、市担当者との連携は殆ど行われていない。	地域密着型サービスにとって市との連携は重要であり、時には市に出向いてホームの状況を報告したり、再度運営推進会議への出席を依頼する等の働きかけが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外常に解放している。身体拘束も行っていない。法人内の身体拘束委員として職員も活動している。職員への周知も出来ている。	法人の身体拘束委員会に職員が参加し、委員会参加後は全職員に会議の内容を報告し、情報の共有を図っている。玄関はリビングから見えにくいいため、センサーが取り付けられている。入居者が自由な行動ができるよう見守り主体のケアを行っており、人数を数えたり、どのトイレに誰が居るといった情報を共有し、全員の居場所を常に確認し、安全に心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、個人的に学習している。事業所内で認知症勉強会を実施し虐待を見過ごさないように気を付けている。虐待は無いが、言葉遣いについては今後も注意が必要と思われる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度については、個別の学習は行っているが、事業所内での勉強会は実施できていないので今後実施していきたい。制度活用に関してはご家族への提案も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、説明を行い納得されるまで話している。制度改正なども4月に説明を行った。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また運営推進会議や家族会で意見を取り入れるようにしている。認知症について勉強したいという家族の希望に合わせ、勉強会を実施した。	運営推進会議の開催時や家族会・面会時など、意見・要望等聴く機会が多く設けられている。ホーム職員が手薄な際に系列他施設からの応援を得ていることに対する意見や、「運営推進会議委員の名札を作って欲しい」など、意見も多く出され、その都度対応を行っている。また、面会の少ない家庭には、電話連絡や家庭訪問を実施し、意見の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ミーティングを行い業務に関する事など意見を取り入れ改善している。	月1回、職員ミーティングを実施。事前に、ケアに関して困っていることやケアについての改善案等、職員から議題を募り、協議している。提出された意見・提案はまず受け入れ実施し、その後再度検討して、積極的に職員の意見を運営に活かしていく仕組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には、人事考課制度を取り入れ就業態度や、自己目標の達成に応じて昇給や賞与に反映できている。また、やりがいが持てるように研修案内なども行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人のスキルに合わせて、事業所内研修の実施や外部研修の案内を行っている。職能要件書に沿って出来ている出来ていないを把握し、指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月の、グループホーム連絡協議会に参加し情報交換を行っている。また、法人内の4つのグループホームで毎月集まり、情報交換や勉強会を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居から1か月間は、各職員が密なかかわりを持つように努めている。ゆっくり会話しこれまでの生活を聞きだし、何をしてほしいのか、何がしたいのか聞くことで安心して頂く様努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず来所して頂き、中の様子や雰囲気を見て頂いている。ご家族がなぜホームの利用を希望されているのか、本音を聞きだしホームで出来ることを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネジャーと話し合い、まずは短期入所を利用して頂いている。入居以外の適切なサービスがあればそのまま他のサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、毎日の生活を利用者と共にしている。掃除・洗濯・調理・片付け・食事・おやつ・会話や体操・レクレーションなどすべて一緒に行う事で信頼関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームで足りないものの買い物や衣類の整理、面会時の排泄誘導など介護指導も実施している。外出や外泊、受診の依頼にも対応して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の友人が遊びに来られたり、自宅に外出や外泊されたり出来るだけこれまでの関係が終わらない様に努めている。	馴染みの関係継続のため、以前通所されていた施設へ訪問する等の努力は行われているが、近くからの入居者や家族は今の姿を目に見せたくない等の意見もあり、苦慮されている様子が見られた。	利用者それぞれの、馴染みの人や場所を把握するための働きかけが、期待される。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席など仲の良いご利用者通しで過ごせるよう配慮している。重度認知症の方には、職員が間に入って会話などの対応をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご利用者の方は、定期的に病院に面会に行ったり、家族やケアマネジャーに連絡を取ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人とゆっくり話す機会を設け、今の生活に満足されているかを確認している。何かやりたいことや行きたいところ等ないか、困っていることなどないか聞きだし、生活の中で実現できるよう検討している。	入居者と一対一となる入浴時は、特にそれぞれの思いを聴くための大事な時間としている。あまり話をしない人についても、日常的な関わりの中で、表情や行動等から意思を確認するよう努めている。いろんなことをやってみて、笑顔が見られた時は「これが好きなんだ」というように、把握件数を増やしていている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族にこれまでの生活について聞き取りを行っている。出来るだけご自宅を見せて頂き日々の会話の中で話の話題にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活動作がご自身でどこまでできるか、見守りながらやって頂いて自立支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意見は取り入れているが、その他の意見としては在宅のケアマネジャーに意見を聞く程度になっている。個別に意見を聞くのではなく今後は話し合いの場を作りたい。	在宅のケアマネジャーの意見や本人・家族の希望を聴き、「ホームに馴染んで気持ちよく生活するために、また機能低下予防のために何が出来るか」をポイントに最初の計画を作成。担当者が毎月モニタリングを実施し、半年後にはアセスメントを見直している。また、ミーティングで利用者の生きがい等を見出しながら計画の更新を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は行っている。気づきや工夫も記録に残している。課題については毎日の申し送り時やミーティング時に話し合いを行い実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診や必要な福祉用具の選択など家族に代わって支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源としては、地域の踊りの団体との交流や、公民館でのフラダンスやハーモニカ演奏等の交流を行っている。地域のお祭りや行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご利用者ご家族の希望の病院に受診して頂いている。往診や受診時に連絡を取っている。	入居者の希望する病院をかかりつけ医とし、6名は、毎月1回すぐ近くの協力病院からの往診を受けている。その他病院への受診は基本的には家族同行となっており、医療機関との連絡を密に行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に2名の看護職員を配置しているので、介護職の気づきは、必ず看護職員に連絡がある。看護職員が確認し受診やその他の指示や処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院時には、一緒に付き添い情報交換をおこなっている。サマリーを記入し渡している。協力病院とは定期的に相談するなどの連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設後1年満たないので、現在重度化した方や、看取りの対象者はいない。入居時には、重度化した場合や看取りの意向確認をとっている。	現状では、夜間往診に対応可能な医師の確保ができておらず、最期は病院に搬送する方針であり、ホームで出来ること、出来ないことについて家族に説明している。重度化に伴う本人・家族の意向については入居時に確認し、意向確認書を取っており、今後重度化した際は、状況に応じその都度の意向を再確認することとしている。	将来的には、看取りの必要性も出てくると考えていることから、終末期対応についての方針を決め、協力医師の確保や必要な体制についての検討を行うことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は、開設前の準備として行った。日々の中で、対応方法や連絡手順など確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中、夜間想定での消防訓練を実施している。地域の消防団にも声掛けを行っている。	年2回、消防署の協力を得て夜間想定も入れ、入居者参加で避難訓練を実施。災害対策については運営推進会議でも検討され、地元消防団との連携について委員に協力依頼中である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊重を念頭に置き、排泄などは小さな声で声掛けしたり工夫しているが、言葉遣いについては気になっており改善が必要。	常に1人ひとりの行動に気を配り、制止でなく見守ることに重点を置き、入居者の行動を中心に考えた支援を心がけている。特に言葉づかいに注意し、利用者のプライドを傷つけるような言葉かけや、友達感覚での言葉かけ等がないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように選択肢を出したり、ゆっくり話を聞いたり工夫しているが、遠慮されている部分もあり十分に思いを聞けていない方もいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の活動はある程度日課を決めているが、ご利用者の希望を聞いて外出行事を入れたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の朝の着替え時には、希望のある方には今日着たい服を選んで着て頂いている。毎週水曜日には、化粧やマニキュアを塗ったり、顔のマッサージをおこなったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、一人ひとりの能力に合わせて、野菜の皮むきや、切り刻み、出来た料理の注ぎわけなどをして頂いている。	献立は法人の管理養士により全体の献立が作られているが、調理はホームで対応し、時にはもらった野菜を利用したり、誕生会の日には本人の好きなメニューへと変更している。買い物は利用者と一緒に近くのスーパーへ出かけたり、それぞれの能力に応じて野菜の皮むきをしたり、材料をまぜたり、おやつと一緒に作る楽しみがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量は、一人一人の希望や医師の指示に応じて変動させている。水分は、毎食時、おやつ時、入浴後に1日量を計算して飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、起床時及び毎食後個別に実施している。口腔内の状況を確認し必要に応じて歯科医に相談している。歯磨きの習慣が無かった方も必要性を説明し習慣化している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関しては、入居後排泄パターンを把握しできるだけオムツからパンツを使用できるように支援している。できる部分は自身で行って頂いている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間をみてのトイレ誘導を心がけている。夜間のトイレ移動が困難な方には居室内にポータブルトイレを設置。リハパン使用からパット使用に改善した例もある。トイレ誘導の際に、入居者の自尊心や羞恥心への配慮の欠けた声掛けが見られ、さりげない誘導を心がけられてはと感じた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては、食事に野菜を多く取り入れたり、散歩などの歩行をして頂いたりしているが、どうしても自然に出ない方には、下剤も使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を好きでないご利用者が多く、入って頂くのに色々な工夫が必要。遅くなると入りたくないと言われる方が多く午後に入浴の時間をとっている。	基本は2日に1回の入浴が予定されているが、希望に応じ毎日の入浴も可能。1対1の介助で、一人ひとりとゆっくり話をし、思いを汲み取る場として活用されている。入浴に躊躇し、拒否をされた方も、入浴後は「気持ち良かった」と満足されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の寝たい時間に合わせて、就寝の支援を行っている。部屋の温度や明るさなどご本人の希望に合わせている。昼寝を希望される方には昼に休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に関しては、目的や副作用など理解している。薬が変更になった後は、1週間程度の観察と記録を行い報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カレンダーめくりや、洗濯干し、たたみ、調理手伝いや掃除などそれぞれの応力に応じて手伝って頂いており、達成感も味わっておられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って近隣の散歩等は出来ている。温泉に行きたいと希望があり足湯に行ったり、夕日が観たいとの希望で外出したりできている。家族や地域の協力依頼は出来ていない。	日常的に、近隣の散歩・買い物や夕日見物、また法人内の他施設での夏祭りや敬老会等の行事に参加したり、農園に草取りや収穫に出かける等、利用者の希望に沿った外出支援が行われている。また、桜・菖蒲等の季節の花見を楽しんだり、足湯に出かける等、楽しい企画が取り入れられている。	今後は家族にも声をかけ、協力を得、共に外出する機会を増やしたいとの意向を持っており、実現を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度を持っておられる方はいるが、ほとんどの方がお金は所持されていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話の希望がある方は、電話をされている。職員から家族への手紙は出しているが、本人には書いていただけていないので、手紙のやり取りは今後実施したい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音は、その時の状況に応じて静かであったり、音楽を掛けたりしている。光は強い光が入らない様に工夫している。温度湿度は定期的にチェックしている。居間の窓が広く自然が見えて季節感を味わうことができる。	窓の外にはみかん畑、遠くに海が見える、静かで自然豊かな環境。玄関やリビングは天井が高く、優しい光が差し込むよう工夫され、壁には季節の貼り絵や習字等、入居者の作品が掲示されており、穏やかな空間となっている。	広いリビングは、静かで落ち着いているが、少し寂しく感じられた。利用者や職員の方々とアイデアを出し合って、生活感や季節感のある、居心地の良い共用空間づくりを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に置があり、ゆっくりしたい利用者は畳でゆっくりできる。テーブルごとに仲の良い利用者同士に座られているので会話も出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた、タンスやベッドなどを持ち込んで頂いたご利用者もいたが、ほとんどの方の居室の工夫は出来ていないので、各ご利用者の担当で工夫していきたい。	家庭から持参した使い慣れたベッドや整理ダンスなどのある部屋もあるが、全体的に持ち込みや飾り付け等がほとんどなく、すっきりとした部屋となっていた。	本人・家族と相談しながら、家族の写真を貼ったり、花や小物などを置くなど居心地の良い居室づくりの工夫が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は、バリアフリーで手すりも設置されている。トイレは様式で車いすでも使用できる。居室には表札があり自分の部屋が分かるようになっている。		